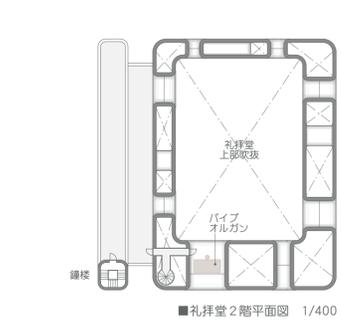
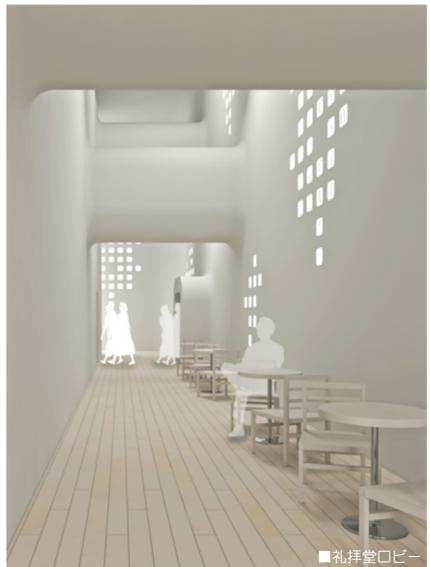




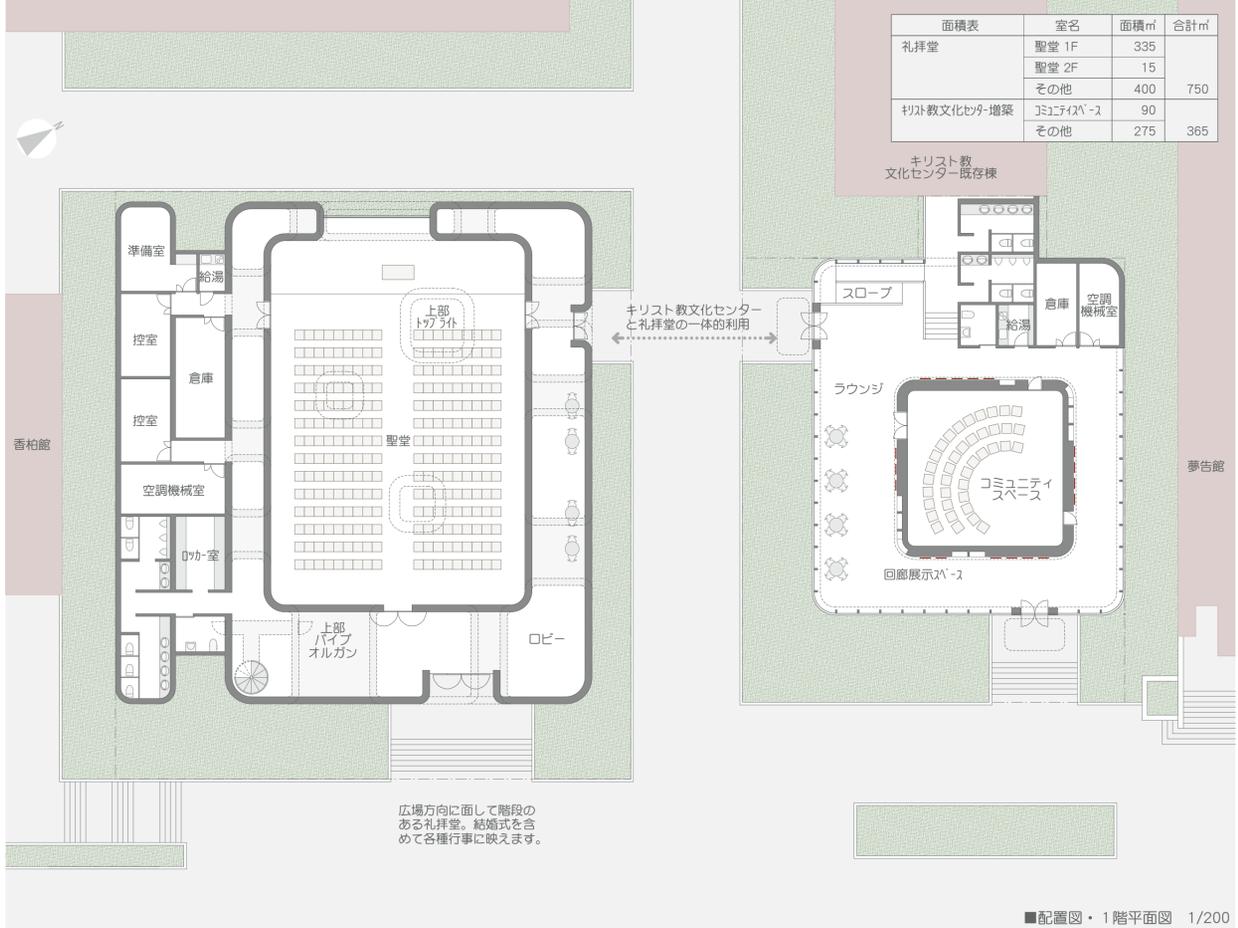
■聖堂内観 ~私をやわらかく、力強く包み込みます~



■礼拝堂2階平面図 1/400



■礼拝堂ロビー



■配置図・1階平面図 1/200

■新しい礼拝堂 ~根本的に新しい何か~

これまでにたくさんの方々の様々な礼拝堂が造られてきました。100年後も愛され語り継がれる同志社大学における新しい礼拝堂、斬新で独創的な発想を求められるこの設計競技には、追随や時流ではない根本的な新しい概念を提案したいと考えました。

■内部の内部は外部である ~福岡伸一 ※1~

【-(マイナス)】の【-(マイナス)】は【+(プラス)】とでも言うようなこの美しく魅力的な概念は、細胞内のタンパク質の合成と交通において実際に出現するトポロジーです(下図)。つまり細胞レベルでは建築的な空間認識とは別に、内と外が非常にはっきりとしているながら、自身の内部に外部を取込むと言う離れわざが常々行われている訳です。このような【内部の内部は外部であるような】礼拝堂の提案です。

※1:『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著



■建築の内部と外部 ~外部の発見~

建築において常に話題とされる内部と外部。その連続性や中間的な領域についてはよく語られるところですが、極めて単純に言うと建築とは、【内部をつくる】ことだと言えます。そして内部をつくるということは、同時に【外部空間】という対概念を、言語学的な区分としてあぶり出したこととなります。つまり内部という認識がなければ外部と言う概念もなかったと考えられます。



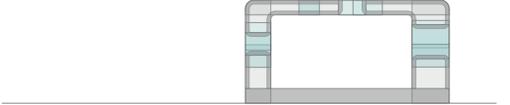
■【私】-【世界】 ~対峙あるいは一体化~

なぜ【内部の内部は外部であるような】礼拝堂の提案なのか。通常は自明のものと考えられがちな「外部」ですが、前述のように「実はつくり出された外部」を今一度、内包すること。それは【世界(外部)】と【私(が内部の内部の外部)】が対峙する唯一の空間として現れます。【世界=創造主=神】と対峙し一体化し得る幸福な空間。やわらかく、そして力強く【私】を直接に包み込みます。私何が象徴的な表現、他者に相対するのではなくて...



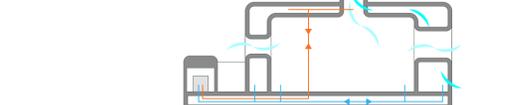
■構造 ~分厚い壁と屋根~

入れ子構造と内外部を貫入する筒を持つ礼拝堂のロビー空間は、構造的にはとても分厚い壁としてとらえることができます。屋根・天井も同様です。3次元的にプレス面付きのフィレンディール形状となり、合理的な構造を実現します。



■室内環境

パッシブには自然換気、重力換気を利用した室内環境のコントロール、アクティブには高い天井高を利用した循環、~冬期には上部の暖められた空気、夏期には下部の冷えた空気のリターンエアの利用と基礎ビット内での熱交換をする快適な室内温熱環境をつくります。



■キリスト教文化センター ~回廊~

【回廊状】の構造を持ちます。コミュニティスペースの外周を展示と書架のための壁面とし、このラウンジをゆったりと廻って歴史ある大学の造詣を深めることができます。展示と書架の壁上部からも光がこぼれ、回廊から中庭外部に出るような感覚で、コミュニティスペースにエントリーします。礼拝堂、既存棟とバリアフリーで一体的な利用が可能な計画になっています。



■地区計画・コンセプト

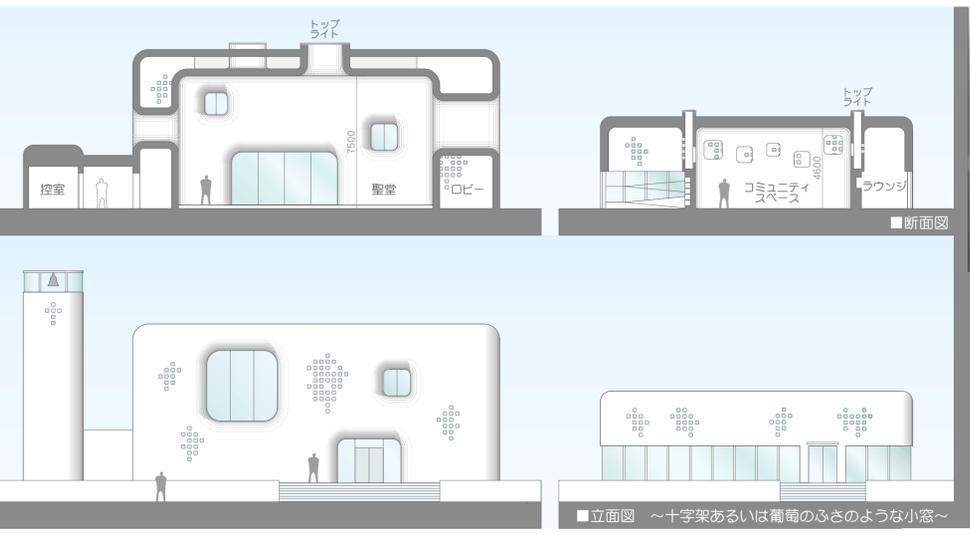
「縛られ過ぎないように」とされながら提示された地区計画。特にその形態や色彩に関する内容の許可基準が不明です。ここに提案するコンセプトは、その方針を一貫させながらこれからのより具体的な要望に柔軟に対応でき、状況によっては許可基準が不明な地区計画のコードにも対応可能と考えています。コンセプトはびくともしません。



■回廊状のラウンジ・展示と書架のスペース



■外観パース



■立面図 ~十字架あるいは葡萄のふさのような小窓~



■コミュニティスペース内観